職員用：穂波東校小中一貫教育だより

令和３年１月２５日　第５号
文責：小中一貫校穂波東校　山本

本年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、予定していた様々な小中一貫教育の取組（小中合同行事、異学年交流、小中合同研修会 etc.）が見送られました。
今回のことで、小中一貫教育はその多くが、人と人とが交わる活動、言い換えると「コミュニケーション・コラボレーションを通して生み出されるイノベーションを目指す活動」から成り立っていることに気付かされました。
さて、本だよりは今回より話題の枠を広げ、「小学部・中学部が互いのことをよく知り合う」を目的に、小・中それぞれの取組を紹介することも行うことにしました。
第一弾は「中学部の ICT 教育の取組」の紹介です。

１　穂波東校：中学部の ICT 教育の取組

先生方はご承知の通り、飯塚市では、新時代に対応した教育を実現するために、市内の全ての児童・生徒に対して、一人１台ずつのタブレット端末の整備が進められています。計画では今年の４月末までに、その整備が完了する予定です。

このタブレット端末が整備されれば、既に整備されているICT機器・環境（電子黒板・教室内のWi-Fi環境・教師用タブレット型パソコン）と組み合わせ、次のような教育活動の展開が可能になります。

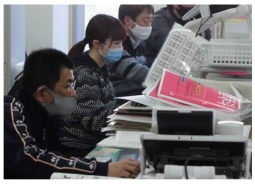
○　教室内のWi-Fi環境を使い、生徒がインターネット(検索サイト)を利用し、個々に調べ学習を行う。
○　「自分の考えや調べたこと」等をタブレット端末により「文章、画像、動画」等の様々な表現方法でまとめる。また、「まとめたもの」を他の生徒のタブレット端末や、教師用PCに送信したり、電子黒板に映し出したりするような発表や意見交流を行う。
○　タブレット端末を使い、個々の理解度やペースでドリル学習に取り組む(徹底反復学習のデジタル化等)。

飯塚市に整備されるICT機器・環境を活かせば、これまで以上に個に応じた指導（個別最適化された学び）が充実し、基礎・基本の徹底等もより効果的・効率的に取り組むことが可能になります。また、自ら情報を収集したり、文章・画像・動画といった多様な方法で自分が知っていること・考えたことを発信したりする力の育成（思考力・判断力・表現力や情報活用力の育成）においても生かすことができます。

また、児童生徒だけではなく、徹底反復学習や小テスト、宿題等をデジタル化することで、〇付けや点数の集計・管理が自動化され、業務の削減にも大きな効果が期待されます。この他にも「ICT機器・環境の活用」には沢山のメリットがあります。このことについては、今後本だよりでも様々な事例をできるだけ分かりやすく紹介していきたいと思います。

このような「ICT機器・環境」を生かすためには、私たち教師自身がそれらについてのスキルを身に付ける必要があります。そこで、中学部では飯塚市から派遣されたGIGAスクールサポーターを講師とした研修会を実施しました（1月14日）。具体的にはタブレット端末を使った授業の基本について、講師が先生役、教師が生徒役となり、「Google for Education」にあるアプリの活用方法を体験しました。実際に体験してみると、「ガラケーの筆者」でも容易に操作することができました。

中学部では今後も「ICT機器・環境」の活用について研修会を実施していく予定です。また、小学部でも同様の研修会が予定されています。今後、互いに情報を交換しながら、効率的に研修を進めていきましょう。



中学部の研修会の様子(R3.1.14)
「Google for Education（クラウド方式の学習支援ツール）」についての体験的に研修しました。